

特集

磯部さんとスペースガード

吉川 真（宇宙航空研究開発機構）

修士のときから私の方は天体力学を専攻していましたが、磯部さんとは特に直接的な関係はなかったのですが、まだ大学院生だった時に天文講座の講師を頼まれたあたりから、天文普及関係で磯部さんと付き合うことが増えはじめました。そして、磯部さんがスペースガード（天体の地球衝突を扱う活動）ということを始められたときからは、磯部さんとの本格的な共同作業が非常に多くなりました。

磯部さんは、本当にエネルギッシュな人です。1996年に日本スペースガード協会を任意団体として発足させ、1999年にはそれをNPO法人としました。その間、スペースガードの重要性を訴え続けて、2000年に岡山県美星町（現在の岡山県井原市美星町）に美星スペースガードセンターが完成することになります。また、国際的にも、スペースガードにおいて指導的な立場になっていきました。

スペースガード協会がスタートしてから10年、この間には、磯部さんとは本当にいろいろなことがありました。望遠鏡の作製のために何回か米国のベンチャー企業を訪れたり、美星スペースガードセンターができてからは何度も美星に出向いたりしました。また、スペースガードに関する研究会や教育活動としても、ずいぶんいろいろな試みを行いました。特に小惑星探しを教育に取り込んだものは、大成功だったと言ってよいでしょう。ただ、スペースガード協会の運営においては、磯部さんとずいぶん対立したこともありました。磯部さんは、正しいと思ったことは決して曲げることはありません。この点は、最後まで自分自身のやり方を貫いたということで本当に頭が下がります。

多分、磯部さんにとって心残りなのは、日本におけるスペースガードの活動が、磯部さんが思っていたほど順調に進まなかったことでしょう。磯部さんはするどい感覚の持ち主であって、何が次に大切なのかを周りの人が気付くはるか前に分かってしまうのです。ところが、周りはそれについていけないことがあるのです。また、個人的に心残りなことは、日本の宇宙関連機関の組織統合のために、自分自身がスペースガード協会の運営から離れざるを得なくなり、磯部さんとの共同作業があまりできなくなってしまったことです。もう少し磯部さんとは議論をしたかったのですが、それもかなわぬ夢となりました。

磯部さんは新たなことをいろいろと立ち上げましたが、その最後の大きな試みがスペースガードであったと言ってよいでしょう。磯部さんの遺志を絶やさないためにも、日本におけるスペースガードの活動には力を入れていきたいと思っています。このような機会を与えてくださった磯部さんには感謝したいと思います。磯部さん、今後も私たちのことを見守っててください。

吉川 真



磯部さんが声をかけて行われた地球接近小惑星についての国際会議に集まった人々
(2001年10月、倉敷にて)